

繰り返し訪れたくなる“にぎわい”のまち
ずっと暮らし続けたい“ふれあい”のまち
中央区



大阪市 中央区将来ビジョン 2023－2027

【2025年 中間見直し版】

もくじ

中央区将来ビジョン2023－2027について	1
中央区の概要	2
まちづくりの方針	8
めざす将来像と戦略の方向性（柱1）	10
めざす将来像と戦略の方向性（柱2）	15
めざす将来像と戦略の方向性（柱3）	20
めざす将来像と戦略の方向性（柱4）	25
施策を推進していくために	29

中央区将来ビジョン2023－2027について

将来ビジョンについて

- 将来ビジョンは、区政を運営していく上で、区のめざす将来像とその実現に向けた 施策展開の方向性などをとりまとめ、区民の方々に明らかにするものです。
- 現行の将来ビジョンは、計画期間を令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの施策展開の方向性などを示したものです。また、単年度ごとのアクションプランとして中央区運営方針を毎年度策定しております。
- この度の「2025年中間見直し版」は、現行の将来ビジョンの策定から2年を経過し、コロナ禍の収束やインバウンドの回復などの影響による社会情勢の変化が認められることから、現状に即したものとなっているかなどの視点によりアップデートするものです。
- なお、引き続き将来ビジョンにかかる取組みはSDGsの理念に基づいてまいります。



中央区の概要

■ 中央区の誕生

中央区は、旧東区と旧南区の合区により平成元年2月13日に誕生しました。わが国初の本格的な都城である難波宮から、近世の大坂城築城を経て今日に至る長い歴史を有するまちです。

■ 旧東区と旧南区

明治12年2月10日、旧東区と旧南区が発足。その後、明治22年の市政施行により大阪市に。市の中枢に位置する両区の発展は市勢発展の歴史と重なります。

■ 中央区の今

江戸時代に大阪の商業の中心だった流れを汲み、今も経済活動が活発に展開され、世界中から多くの人々が訪れ、賑いを見せています。また、区内各所には、大阪城、難波宮跡をはじめ由緒ある寺社、近代的建造物等の歴史的遺産が数多く存在し、文楽や、能楽、上方芸能といった伝統文化が息づく、大阪を代表する経済・文化の中心地となっています。一方、都心部でありながらも、地域の活動も活発であり、昔ながらのコミュニティが育まれています。



面積8.87平方キロメートル
(平成26年10月1日現在 国土地理院発表)
世帯数：77,813世帯
人口：117,686人
(男：55,499人 女：62,187人)
【令和7年3月1日現在】

中央区の概要

御堂筋を中心としたオフィス街。
活発な経済活動が行われている。

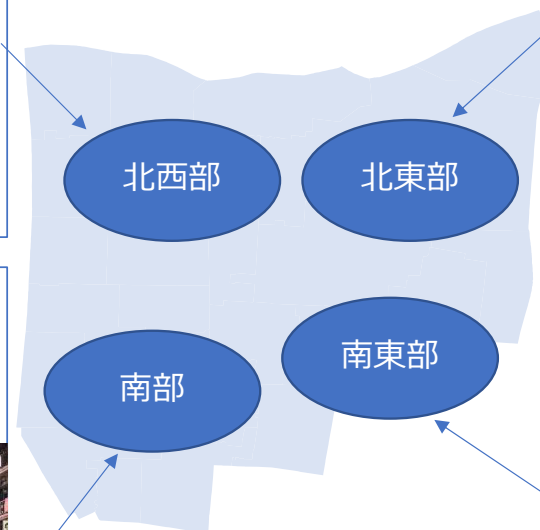


夜の御堂筋

「ミナミ」の愛称で呼ばれる
“楽しみの街”。多くの人たちで
にぎわう。



道頓堀



大阪城公園を中心に様々な文化施設が
あり、市民が憩い、
世界中からの
観光客が訪れる。



大阪城

中寺・谷町界隈には、由緒ある寺社な
どが数多くあり、落ち着いた歴史の匂
いが漂う。



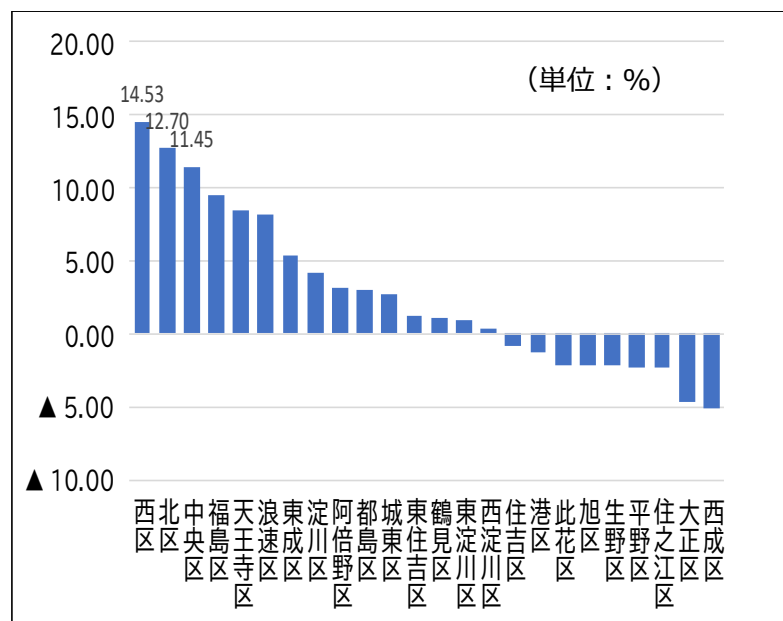
高津宮

中央区の概要

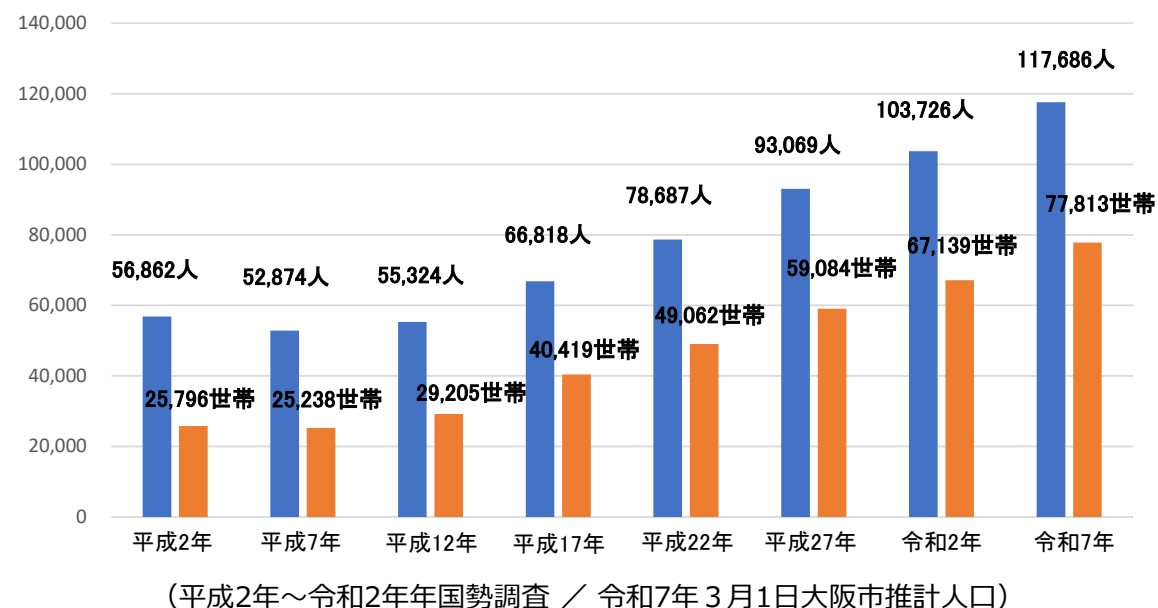
■ 人口動向

人口増加率は、西区、北区について、市内で3番目に高い比率となっており、35年間で区の人口は、2.1倍、世帯数は3.0倍と急増している。

● 平成27年対令和2年国勢調査比較（人口）



● 中央区の人口及び世帯数の変化



中央区の概要

■ 人口動向

中央区における総人口及び年齢別人口（15歳未満、65歳以上、75歳以上）の推移をみると、いずれの年齢階層も人口は増加している。また、その内、外国人人口も増加しており、多国籍化している。

	総人口			15歳未満			65歳以上			75歳以上		
	総人口	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率	総数	うち外国人	比率
平成12年	55,324	2,664	4.8%	4,810	180	3.7%	10,253	146	1.4%	4,276	48	1.1%
平成17年	66,818	4,352	6.5%	5,071	171	3.4%	12,181	359	3.0%	5,509	138	2.5%
平成22年	78,687	4,261	5.4%	6,129	201	3.3%	13,215	311	2.4%	6,215	102	1.6%
平成27年	93,069	2,155	2.3%	7,952	119	1.5%	15,371	236	1.5%	7,055	79	1.1%
令和2年	103,726	7,294	7.0%	9,557	454	4.8%	15,654	481	3.1%	7,582	163	2.2%

※平成12年、平成17年外国人数は、無国籍、国名「不詳」を含む

(各年国勢調査)

総人口 … 117,513人

令和6年12月末現在
外国人人口 … 12,352人
(住民基本台帳)

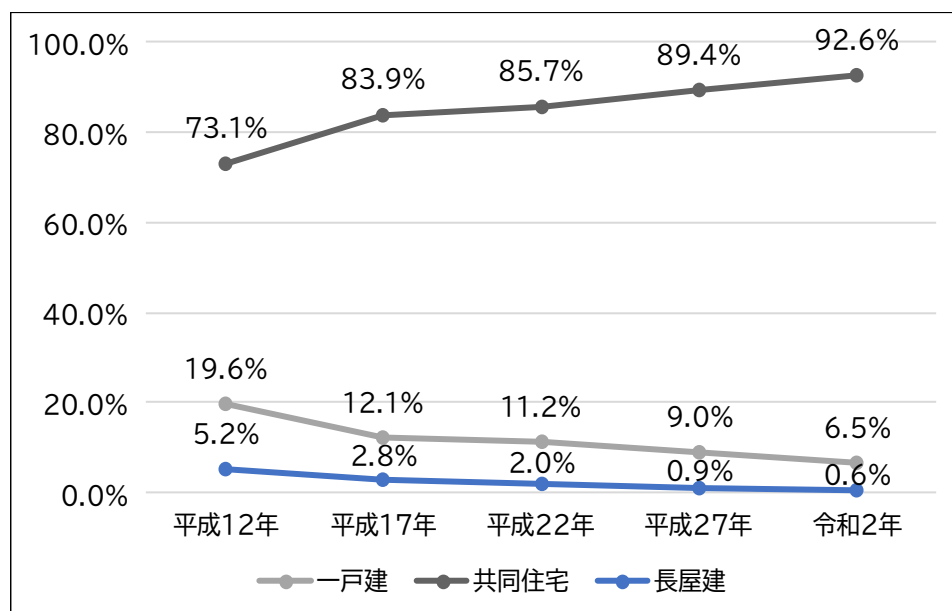
国・地域別外国人人口（令和6年12月末現在）			
中国	5,763人		
韓国・朝鮮	2,548人		
台湾	691人		
フィリピン	552人	など	

中央区の概要

■ 住宅

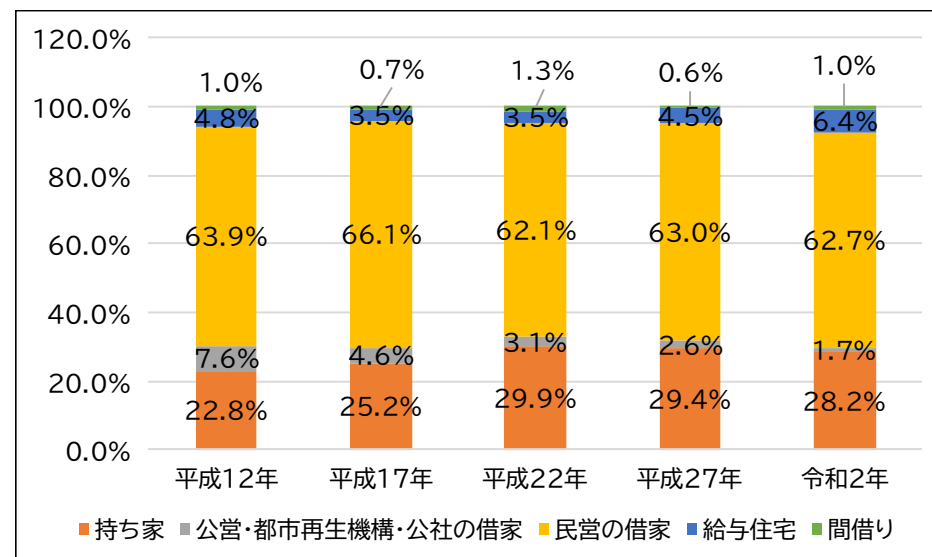
中央区の住宅に住む一般世帯の内訳の推移をみると、共同住宅に住む世帯の比率が9割を超える。

中央区の住宅に住む一般世帯の内訳



(各年国勢調査)

共同住宅の所有形態の構成（比率、世帯数）の推移



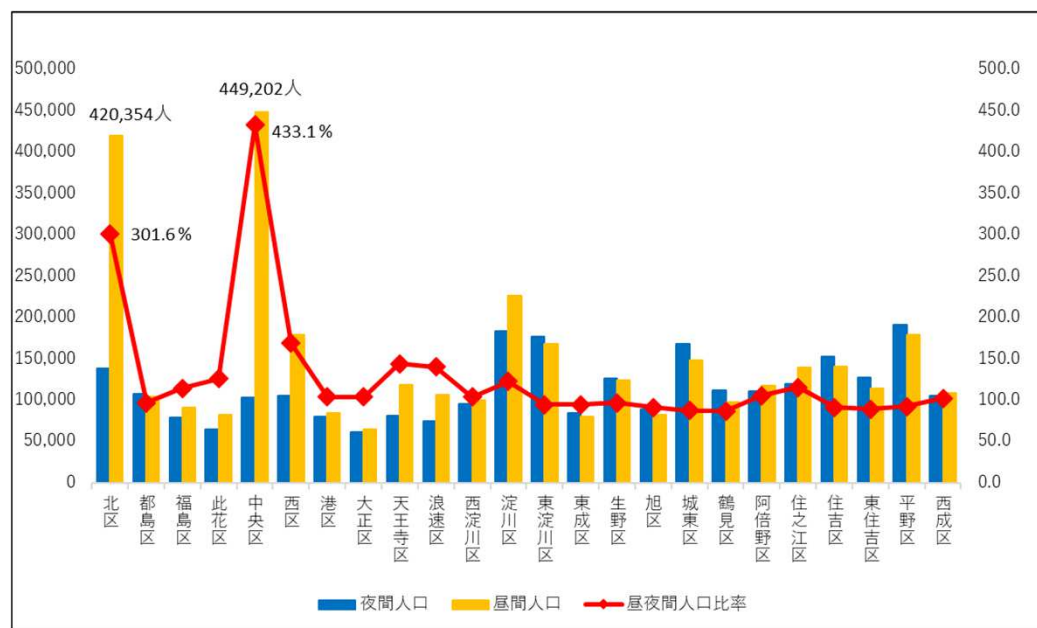
(各年国勢調査)

中央区の概要

■ 中央区の経済

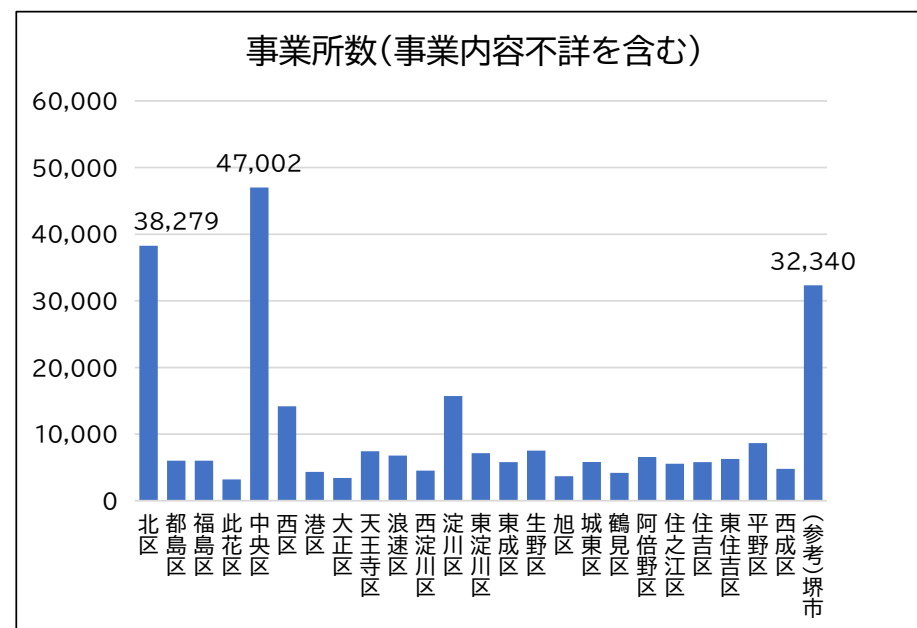
昼間人口は、449,202人と市内で一番多く、事業所数についても市内で一番多い。

区別夜間・昼間人口及び昼間人口比率



令和2年国勢調査

事業所数（事業内容等不詳を含む）



令和3年経済センサスー活動調査

まちづくりの方針

1 私たちがめざす将来像

世界中の人たちが、繰り返し訪れたいくなる“にぎわい”のまち
つながり、支え合う、ずっと暮らし続けたい“ふれあい”のまち
それが、私たちのめざす中央区です。

2 基本方針 “ゆるやかにつながるまち”

マンション等共同住宅の居住者が9割を超える中央区の特性をふまえ、住民同士のセーフティネットの構築にもつながるよう、それぞれのマンション住民・管理組合・管理会社（マンションコミュニティ）と、行政、地域コミュニティがゆるやかにつながり連携する“ゆるやかにつながるまち”を各施策共通の考え方とし、めざす将来像の実現に取り組んでいきます。

まちづくりの方針

3 めざす将来像に向けたまちづくりの柱

1

繰り返し訪れたくなる、
快適でにぎわいのあるまち

2

安全・安心で快適に暮らせる
まち

3

子どもの未来を
みんなで育むまち

4

ふれあいのある誰もが
幸せに暮らせるまち

めざす将来像と戦略の方向性

柱1 繰り返し訪れたくなる、快適でにぎわいのあるまち

めざす将来像

まちの魅力が高まり、世界中から多くの人が繰り返し訪れるにぎわいにあふれたまち

柱1 繰り返し訪れたくなる、快適でにぎわいのあるまち

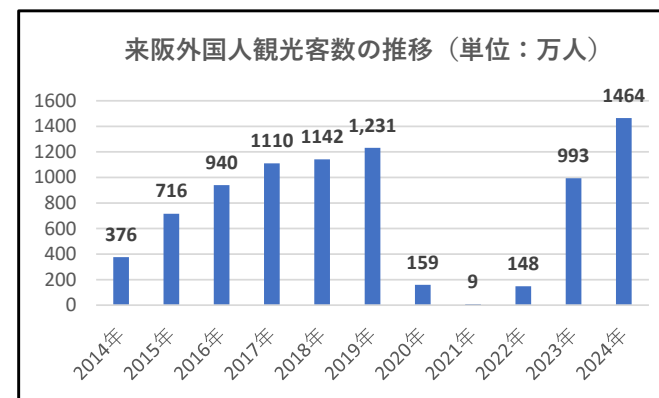
1-1 にぎわい

現状

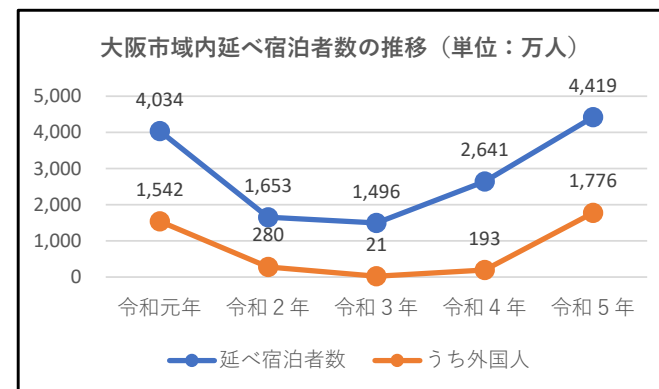
- 中央区は古くから大阪の経済・文化の中心地として世界中から多くの人々が訪れるまち。区はその魅力の発信に取り組んできている。
- 2024年に大阪を訪れた訪日外国人観光客はコロナ禍前の2019年を2割近く上回り、過去最高を更新した。
- 2025年には、大阪・関西万博開催により、世界中からの観光客の更なる増加が予想される。

課題

- 商店会、企業、関係団体等と連携・協働し、大阪・関西万博のその先をも見据え、地域が活性化し、持続的にまちがにぎわうよう取り組んでいく必要がある。
- 中央区に存在する歴史的・文化的価値のある観光資源の魅力を広く発信するとともに、世界中から多くの人に繰り返し訪れてもらえるような環境を整備していく必要がある。



JNTO「訪日～外客統計」観光庁「外国人消費動向調査」をもとに大阪観光局が推計



大阪府地域別延べ宿泊者数（推計値） 大阪府

柱1 繰り返し訪れたくなる、快適でにぎわいのあるまち

1-1 にぎわい

戦略の方向性 多彩な魅力の創出と情報発信による 持続的なにぎわいづくり

商店会や企業、関係団体等と連携・協働し、地域や近隣に住む人々に愛され、世界中から多くの人々が「繰り返し訪れたくなる」魅力を創出する。

2025大阪・関西万博の開催とも連動させながら、歴史や文化に彩られ、なおもダイナミックに変容していくまちの魅力を世界中に戦略的に発信していく。



PR動画
夢幻旅 幻視大阪in中央区



魅力発信イベント
にぎわいスクエア

柱1 繰り返し訪れたくなる、快適でにぎわいのあるまち

1-2 環境浄化

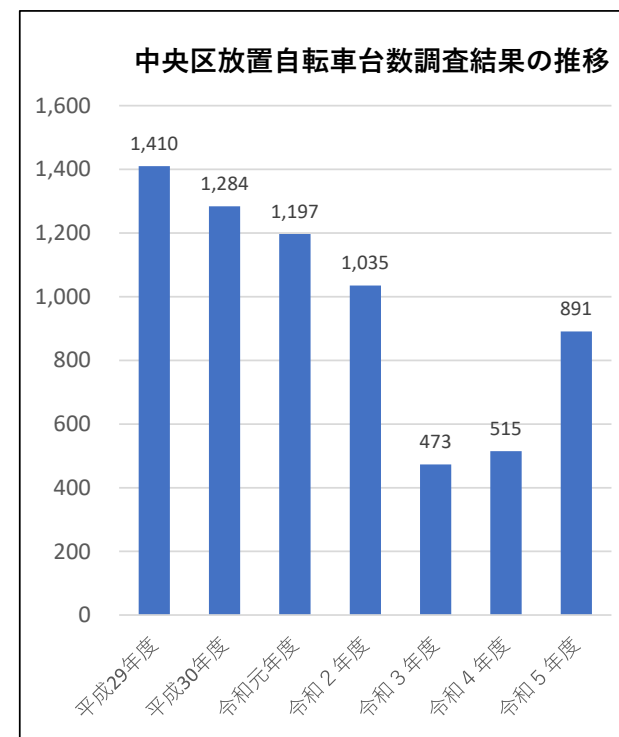
現状

- 放置自転車台数は減ってはいるものの、コロナ禍以降は増加傾向にある。ミナミの一部エリアでは、住民自らの発案により南警察署、建設局、区役所が参画する「環境美化夜間合同パトロール」を実施しており、テレビニュースになるなど注目を集めている。
- 令和7年度からはミナミエリアにおける放置自転車の夜間撤去及び啓発活動を毎日実施している。
- 大阪市では、安心、安全で、ごみのポイ捨てのない快適な生活環境を確保するとともに、国際観光都市にふさわしい環境整備やまちの美化に積極的に取り組んでいくため、令和7年1月27日から、路上喫煙を禁止する区域を大阪市内全域に拡大した。

課題

- 大阪・関西万博の影響もあり、放置自転車やごみのポイ捨て、路上喫煙の問題など、区民のまちの環境課題への関心が高まっており、大阪・関西万博閉幕後においても、これまでの区民と関係機関が協働した環境浄化の取り組みを継続する必要がある。

単位：台／日



(建設局放置自転車実態調査)

柱1 繰り返し訪れたくなる、快適でにぎわいのあるまち

1 - 2 環境浄化

戦略の方向性 区民との協働による快適なまちづくり

放置自転車やごみのポイ捨て、路上喫煙など、まちの環境課題について、地域と関係機関と協働し、自転車利用の適正化や路上喫煙対策などまちの環境浄化に取り組む。



ミナミベっぴん
プロジェクト



安心でっせミナミ・
すきやねんミナミク
リーナップPR合
同キャンペーン



橋洗いブラッシュ
アップ大作戦

めざす将来像と戦略の方向性

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

めざす将来像

「自助」「共助」を中心とした災害に強いまち、安全・安心で
快適に暮らせるまち

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

2-1 防災

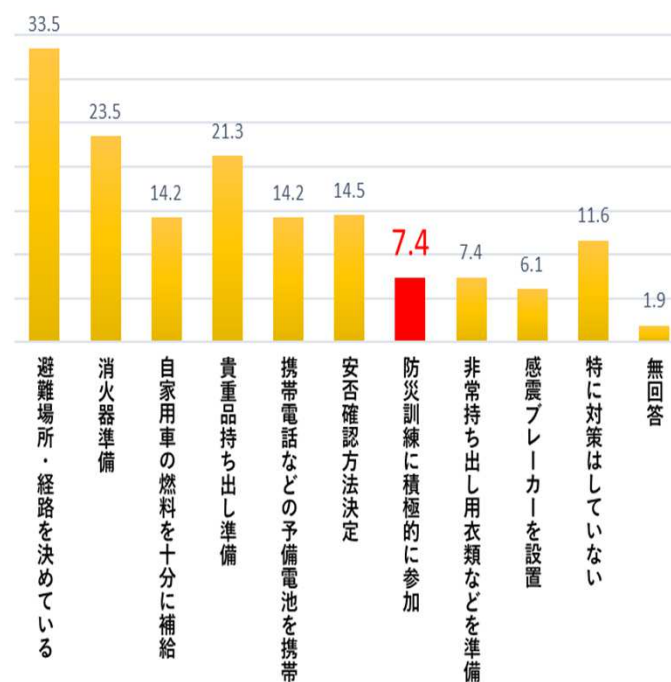
現状

- 大規模災害時における「自助」「共助」の重要性や家庭での家具転倒防止や備蓄、地域・自治会の防災訓練への参加といった具体の防災行動について、周知・啓発を行っているものの、各家庭や事業所などへの浸透は低調と推測する。
- 中央区は大阪市で最も昼間人口が多く、昼間に大規模災害が発生した場合には、就業者を中心に世界中からの旅行者も含めて、多くの人が帰宅困難になることが想定される。

課題

- 大規模災害に備え、区民の防災対策が、マンション居住者の多い中央区の特性に応じた具体の防災行動につながるよう、さらなる啓発が必要である。特に、地域と関わりの薄いマンション居住層へのアプローチ手法を検討する必要がある。
- 帰宅困難者を生み出さないため、企業等が自ら帰宅抑制や備蓄などの対策をとるよう関係所属と連携する必要がある。

大地震に備えての対策（単位：％）



内閣府防災に関する世論調査(近畿)令和4年9月

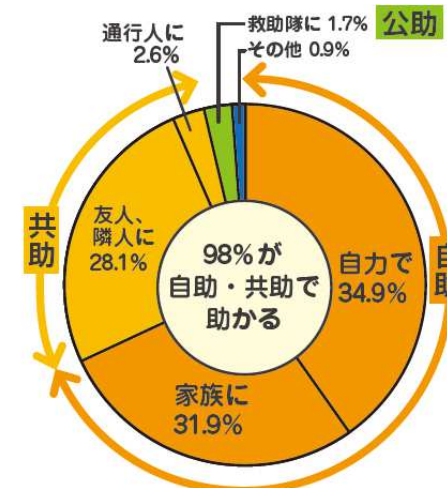
柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

2-1 防災

戦略の方向性 「マンション防災」を軸とした地域のつながりづくり

共同住宅居住層が9割以上という区の特性に応じ、マンション固有の防災対策の必要性を啓発することでマンションコミュニティの防災力を高める。

さらに、こうしたマンションコミュニティと地域の自主防災組織、企業とをつなげ、災害に強いまちづくりを実現する。



(社)日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より



災害被害を軽減するには、これらの連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること
共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと
公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

2-2 防犯・交通安全

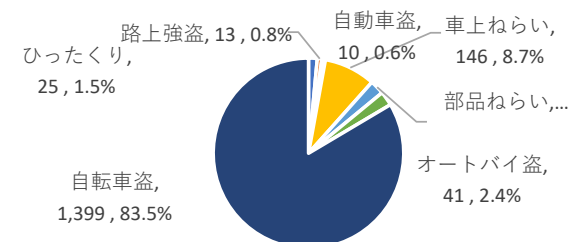
現状

- 中央区の街頭における主な犯罪の発生件数は大阪市内ワースト1（令和6年集計）である。また、高齢者を狙った特殊詐欺も手口が巧妙化し、被害額が増大している。
- 子どもや高齢者を中心とした交通安全教室の実施や交通ルール遵守の啓発キャンペーンを行っているが、交通ルールを守らないことによる事故が発生している。

課題

- 犯罪被害を防ぐため、区民の防犯意識をより高める必要がある。
- 交通ルールの周知や交通安全教室を通じて、安全意識の向上を図る必要がある。

街頭における主な犯罪の発生件数と割合
(令和6年1月～12月暫定値)



(大阪府警データ)



青色防犯パトロールカーによる地域安全パトロール

柱2 安全・安心で快適に暮らせるまち

2-2 防犯・交通安全

戦略の方向性 **区民との協働による安全・安心で
快適に暮らせるまちづくり**

警察署と協力して防犯啓発活動等を実施するとともに子どもに対する犯罪を防止するなど、安全・安心なまちづくりに取り組む。

「交通事故をなくす運動」中央区推進本部が中心となって、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの意識向上を図り、交通事故防止対策に取り組む。



防犯キャンペーン
ひったくり防止カバーを職員が装着



警察と連携した交通安全出前講座

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

めざす将来像

未来の担い手であるすべての子どもがすこやかに成長するよう、
安心して子育てができるまち

誰一人取り残されることなく、未来を切り拓く力を培っていけるよう、
子どもたちの学びを応援するまち

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-1 子育て

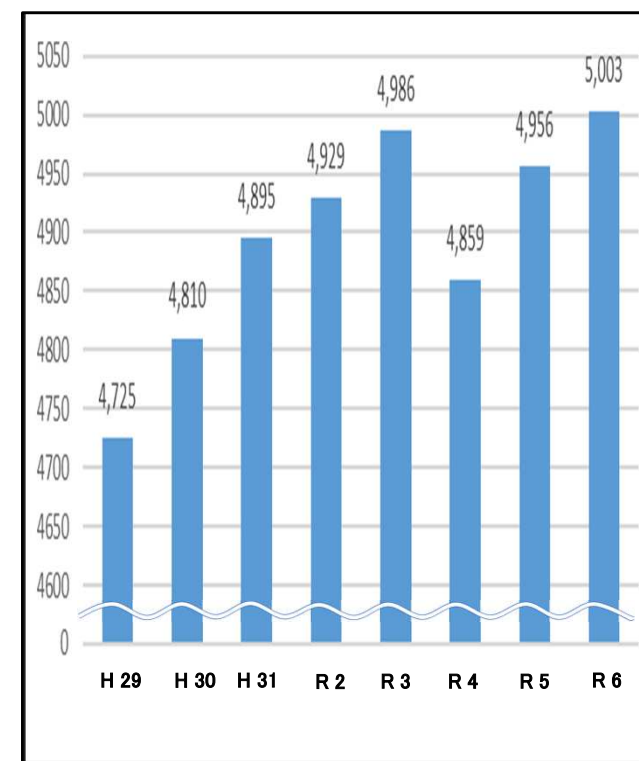
現状

- 中央区では、転入による人口の増加に伴い、未就学児がいる子育て層も増加しており、その多くがマンションに居住している。
- 核家族化が進行し地域との関わりも薄い中、周囲に相談相手が見つからず保護者が一人で不安や悩みを抱え孤立してしまうことが懸念されている。
- 共働き世帯が増加し、今後も当面は保育ニーズの増加が見込まれる。

課題

- 保護者が孤立せず、安心して子育てできるよう仲間づくりや気軽に相談できる場が必要である。
- 児童虐待の懸念や子どもの貧困等、外からは見えにくい家庭内の課題を早期に見つけ支援につなげる必要がある。
- ニーズに合った保育サービスを提供する必要がある。
- 子育て支援情報を必要なすべての人に届ける必要がある。

中央区の6歳未満人口の推移（単位：人）



（各年住民基本台帳）

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-1 子育て

戦略の方向性 安心して子育てができる環境づくり

商業施設やマンション等も含めた地域コミュニティと連携することにより、子育て世帯のニーズに沿ったより交流・相談しやすい場を提供するとともに、地域とのつながりを促進し、子育て家庭を見守る体制をさらに充実していく。

また、必要な人にしっかりと子育て支援情報を届け、安心して子育てができる環境づくりに取り組む。



キッズスペース
カンガルーポッケ
(保健福祉センター)



安心子育て応援事業
パンジーひろば

柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-2 子どもの学び

現状

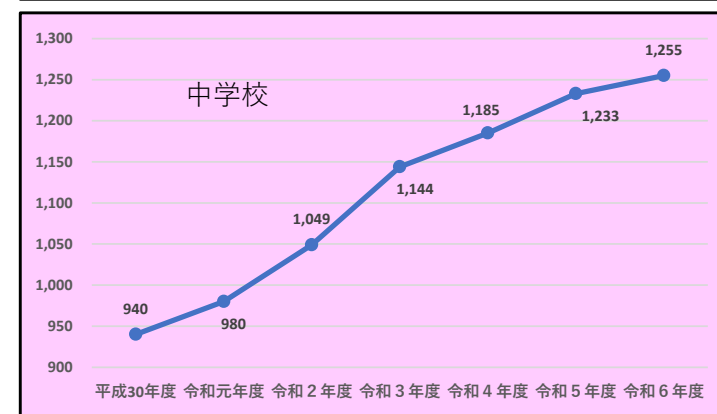
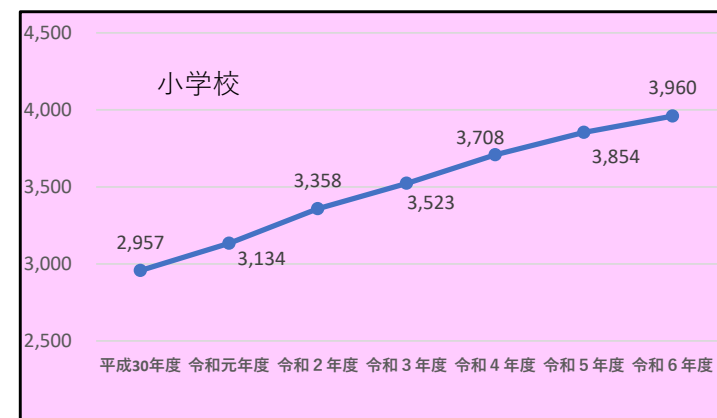
- 区内の子どもの数が増加する中、外国につながる児童・生徒をはじめ、様々な支援を必要とする子どもたちも増加している。
- 子どもたちの学びを取り巻く環境は複雑化しており、学校園での取組だけでは困難な課題も生じている。

課題

- 学校園の実情に応じた学習環境づくりの支援が必要である。
- 外国につながる児童・生徒等は多様な背景を持っており、学習支援だけでなく、本人や保護者が地域で孤立しないよう多様な支援が求められる。こうした複雑な課題解決には、社会全体での取組が求められている。
- 都心回帰による児童・生徒数の急増により、一部の学校では教室数の不足が見込まれ、その一方で小規模校のまま推移する学校もある。児童・生徒数の推計を注視しつつ、区内の教育環境が適切となるよう整備していく必要がある。

中央区内市立小中学校における児童生徒数の推移
(各年学校基本調査：各年5月1日現在)

単位：人



柱3 子どもの未来をみんなで育むまち

3-2 子どもの学び

戦略の方向性 子どもや学校を応援する学びのネットワークづくり

外国につながる児童・生徒等も含め、区内で学ぶ全ての児童・生徒らが、自らの持つ可能性を広げ、未来を切り拓く力を培っていけるよう、地域や企業とも連携協働（学びのネットワークづくり）しながら、学校園のニーズに応じた学習環境づくりの支援を行う。

子どもたちが生き生きと安心・安全に学校生活を送れるよう、保護者や地域の皆様の声を丁寧に聞きながら、収容対策や学校の魅力化などの教育環境整備に取り組んでいく。

体力向上支援授業の様子



民間事業者を活用した課外学習支援事業

寺子屋ちゅうおう

小5小6対象

令和7年度受講生募集

4/11（金）授業開始

1人の講師につき生徒5人以下の学年別少人数制個別指導

実施要項

対象	中央区在住の小学5～6年生	定員	30名（先着順）
日時	毎週金曜日 16:15～18:15		
場所	大阪市立中央会館2階第3・4会議室（中央区島之内2-12-31）		

柱4 ふれあいのある誰もが幸せに暮らせるまち

めざす将来像

人々がそれぞれを尊重しながら、誰もが誰かを
「気にかけて、つながり、支え合う」誰もが幸せに暮らせるまち

めざす将来像と戦略の方向性

柱4 ふれあいのある誰もが幸せに暮らせるまち

現状

- 中央区の65歳以上を含む高齢者世帯は増加しており、そのうち約半数が独居（単独）世帯である。また、認知症などにより介護を必要とする高齢者は増加してきている。
- 何らかの支援を必要とする人及びその家族においては、社会から孤立し支援につながらない、または複合的な課題を抱え支援が困難となるケースが増えてきている。

課題

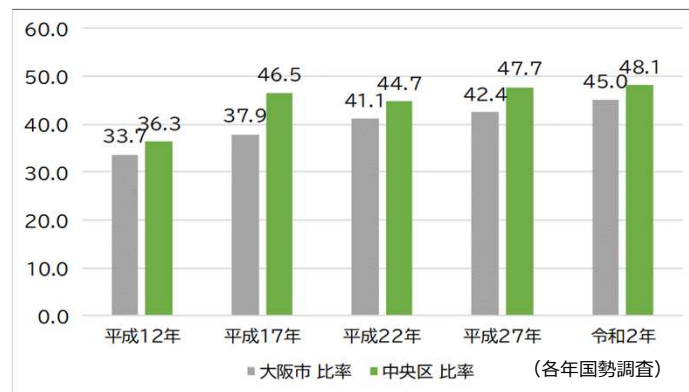
4-1 地域福祉

- 高齢者が孤立せず自分らしく安心して暮らせるよう地域での居場所づくりや見守りなどの支援を広げるとともに、支援に関する情報を区民にしっかりと周知していく必要がある。
- 支援を必要とする人達が「誰一人取り残されず」支援につながるよう行政機関・地域・区民が一体となって取り組む必要がある。

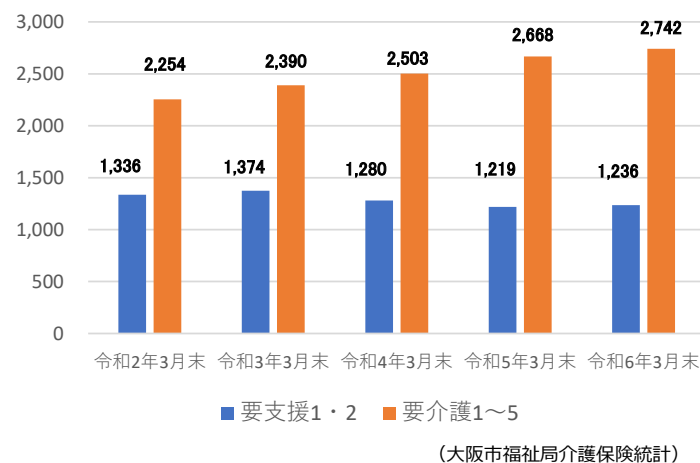
4-2 健康寿命

- ライフステージに応じた生活習慣の改善及び介護予防活動により、生活機能の維持向上に取り組むことで健康寿命を延ばす必要がある。
- 医療や介護が必要となっても自宅で暮らし続けられるよう、関係機関の連携を強化する必要がある。

■ 65歳以上を含む世帯に占める単独世帯の割合（単位：％）



■ 中央区 要支援認定者・要介護認定者（単位：人）



柱4 ふれあいのある誰もが幸せに暮らせるまち

4-1 地域福祉

戦略の方向性 **気につけ、つながり、支え合える
まちづくり**

地域コミュニティや医療・介護事業者等が連携・協働した地域包括ケアシステムの強化に取り組み、マンションコミュニティにアプローチし、日頃の見守り、地域との連携につなげていく。

また、すべての区民に「見守りのしくみや支援に関する情報」を届け、必要な時につながることができるよう、誰もが誰かを「気につけ、つながり、支え合える」まちを実現する。



見守り活動
声かけ訓練

地域福祉コー
ディネーターに
よる見守り活動



柱4 ふれあいのある誰もが幸せに暮らせるまち

4-2 健康寿命

戦略の方向性 **健やかでいきいきと暮らせる
まちづくり**

健康寿命の延伸に向けて各種がん検診・特定健診受診率の向上や健康増進・介護予防の普及啓発に取り組むとともに、SNS等を活用した広報活動の強化を図る。

また、在宅医療・介護を支援する関係機関の連携強化を図る。

介護予防 いきいき百歳体操



令和6年度
中央区健康展

施策を推進していくために

寄り添う

区民に寄り添い、気かけ、気づき、必要な支援につなげられるよう職員の福祉マインド力を強化します。

発信する

ビジョンの施策展開に沿った戦略的な情報発信と、区民の声を区政に反映するしくみを充実します。

向上する

生活の質向上を実感いただけるよう、ICTを活用し行政サービスの利便性を向上します。

協働する

公民連携を推進し、企業や大学等教育機関がもつ力をまちづくりに生かします。

編集・発行

2025年4月

大阪市中心区役所 魅力推進課（区政企画）

〒541-8518 大阪市中心区久太郎町 1 丁目 2 - 27

電話：06-6267-9683 ファックス：06-6264-8283



中央区マスコットキャラクター
「ゆめまるくん」